

おおづまち議会だより

OZU

2026
114号

今月の定例会は

12月 3月

9月 6月

本会議動画
配信中

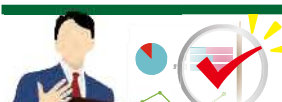


議会だよりが
読めるアプリ

マチイロ



矢護川団地 魅力向上プロジェクト ウォールアートの様子



議員の視点

(本会議での質疑の一部を抜粋して掲載しています)

本会議動画配信



時松 智弘 議員

大塚 勝二 議員

佐藤 真二 議員

豊瀬 和久 議員

三宮 美香 議員

西川 秀貴 議員

田代 元氣 議員

山本 富二夫 議員

山部 良二 議員

岩下 啓史 議員

村山 龍一 議員

問 こども誰でも通園制度の実施について、**答** 医療的ケアが必要な子どもたちに対する体制について、大津保育園は配置済、今後、各私立保育園等も必要であれば配置していただく。

問 こども誰でも通園制度の先行自治体では利用時間が10時間では足りないとの声もある。複数自治体の事例や課題を事前に十分調査し、独自の対策を行っていく方がいいのではないかと。

問 今年度初めに遡及する職員給与増額が途中退職者にも適用されるならば、条例の附則に明記したほうがより明確になるのではないかと。

問 町老人福祉センターの指定管理によるサービス向上や経費面の具体的な効果、増額した管理料の要因と内容、審査で高評価だった点と課題を明示してもらいたい。

問 老人福祉センター指定管理料に、老朽化にともなう修繕費が含まれているのか。

問 ガスヒートポンプの納入可否を確認せず、2億円超の契約を結び、完成期限も見通せず凍結に至った対応は、行政の認識の甘さを示している。また、この説明で本当に町民は納得するのか。

問 町民グラウンドはAコート、Cコートの利用頻度が高いが、なぜBコートの改修を行うのか。また、利用者や指定管理との協議は行ったのか。

問 鳥子川1号マンホールポンプ復旧工事は670万円だが、今までは、1号ポンプがなくても他のポンプで補っていたのか。今回の復旧工事はなぜするのか。

問 浄化センターの通報装置が故障した場合、早期の察知ができなくなり、発見が遅れ、ポンプの故障など事故につながるが、具体的な対応を問う。

問 水源地造成に伴う取水量増加が地下水保全に与える影響をどのように考えるか。あわせて、令和11年度以降に見込まれる約1000㎡増加の根拠について説明を求める。

問 工業用水道事業の第5水源地の増設による経営戦略はどうなるのか。それに伴う下水道の管路は大丈夫なのか。

令和7年度12月補正予算



12月定例会は、12月4日から18日の15日間の会期で開催され、町長提案の一般会計をはじめとする条例4件、規約の一部変更1件、指定管理の指定2件、補正予算8件、最終日に追加された補正予算1件、人事案件3件の計19件が審議され、可決されました。

また、一般会計では**5億4千万円**が増額補正され合計**202億5,947万円**となりました。

一般会計補正内容（抜粋）

子育て支援について

・物価高対応子育て応援手当支給事業 **1億6,007万円**

町営住宅について

・あけぼの団地9号棟屋上防水シート改修工事

当初予算**720万円** → 補正後**1,360万円**

災害復旧について

・町道杉水原水線法面崩壊災害復旧工事

補正前**300万円** → **2,100万円**

・農業用施設災害復旧工事 **2,355万円**

※上に挙げた予算以外にも特別会計含め様々な事業予算が上程され可決となりました。

議員の賛否を公開します

上程された議案・概要	坂本典光	岩下啓史	中山直之	清原孝一	村山龍一	大村裕一郎	田代元氣	時松智弘	西川秀貴	三宮美香	山部良二	山本富二夫	佐藤和久	賛成	反対
大津町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	-	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	13	2
大津町老人福祉センターの指定管理者の指定について	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	14	1
大津町楽善ふれあいプラザの指定管理者の指定について	-	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14	1
大津町工業用水道事業会計補正予算(第1号)について	-	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14	1

※議長は議事進行を行うため賛否表明はしません。賛否の分かれた議案のみ掲載しています。

■賛否表 ○は(賛成) ●は(反対) ●は(棄権) 欠は(欠席)

その他の議案については議会ホームページをご覧ください。

大津町議会

検索

くらしと産業の土台を創る 経済建設委員会 レポート

早めの対応で 事業を進める

❶ 道路新設改良で事業を前倒して計画するのはどうでしょうか。

❷ 工業団地周辺道路の代替え道路整備に伴う地盤改良工事や杉水西地区の排水路整備について、未整備区間をできる限り着手したいと考えている。配分された国費を確実に執行するために前倒しで行う。

予算を無駄なく 事業を前倒して



杉水水迫線



第5水源地の候補地

❸ 水源地の増設は令和7年3月改定の経営戦略には入ってなかった。なぜ、第5水源地を作ることになったのか。

❹ 計画時に使用水量の増加要望があり、供給量不足が懸念されていた。調査の結果、新たな使用水量増加の要望があったため、第5水源地を増設することにした。

第5水源地増設

教育・子育て・福祉を所管する 文教厚生委員会 レポート

無駄なく 効率的な運営を



大津北中学校体育館

❶ 学校体育館に空調を整備するのあれば、断熱工事を実施した方がよいのではないか。

❷ 断熱工事とは。

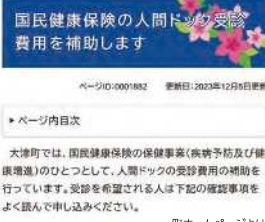
断熱工事は国の交付金の要件となっている。以前は屋根や外壁などの比較的大規模な工事が求められたが、現在は何らかの断熱対策を実施することに緩和されている。窓ガラスへの遮熱フィルムや遮熱カーテンの事例もある。空調設置だけ先行し、後で断熱工事をするのも認められている。

断熱工事も必要ではないか



❸ 後期高齢者の人間ドック受診数は年々増加しているのか。また、人間ドックの個人負担額はいくらか。

❹ 団塊世代が該当年齢となり後期高齢者が増え、受診者数も増加している。受診に対して2万5千円を補助している。検査項目を追加する場合などは、個人負担となる。



町ホームページより

委員会レポート

総務委員会



総務委員会・経済建設委員会・文教厚生委員会の3つの委員会があります。議員は必ずいずれかの委員会に属しています。本会議にて各委員会に委ねられた議案は委員によるさらに深い審議を経て、委員長が議会で報告します。

経済建設委員会



文教厚生委員会



総務常任委員会	総務課 総合政策課 財政課 防災交通課 人権推進課 住民課 環境保全課 税務課 会計課 議会事務局
経済建設常任委員会	農政課 商業観光課 企業振興課 都市計画課 建設課 下水道課 工業用水道課 農業委員会
文教厚生常任委員会	福祉課 子育て支援課 介護保険課 健康保険課 学校教育課 教育施設課 生涯学習課

町の安心と運営を支える 総務委員会 レポート

暮らしに身近な 事業の課題と対応



切り取り式冊子のタクシー券

❶ 高齢者運転免許証自主返納支援事業について、タクシー券の印刷製本費が高額ではないか。また、一回限りの交付であれば、町内事業者限定にするなどコスト削減を図れないか。

❷ タクシー券は切り取り式冊子で指定用紙を使用しており費用がかかっている。町内事業者の活用については、今後検討していく。

❸ バスICカードからタクシー券を選択できるようにする際、乗合タクシーのエリアを適用するなど、選択できる基準については設ける必要があると思われるため精査してほしい。

街灯修繕とLED化の現状



水銀灯が使われた街灯

❶ 街灯盤や特殊街灯とは何か。また、修繕内容の内訳はどうなっているのか。あわせて、町内でもまだLED化されていない街灯はどれくらいあるのか。

❷ 街灯盤は美咲野のメイン通り沿いにある腰高街灯の管理設備で、特殊街灯はその街灯を指す。点灯しない10基は水銀灯のためLED化が必要である。修繕は老朽街灯の建替えや照明交換を行うもので、未LED化は美咲野区内とイオン北側通りの部のみとなっている。

Q 稼げる農業への転換がさらに必要ではないか

A 継がせたいと思えるよう農業経営を支えていく

おおむら ゆういちろう
大村 裕一郎議員



その他の質問

- ・位置情報アプリのリアルイベント誘致について
- ・科学館について

Q 農業における後継者がいる割合は、所得が多いほど高い傾向にあり、農業所得金額が7百万円を超えてくると段階的に後継者が増加する。また、農業を継いでいない方への原のアンケートでも「農業で家族を養える十分な収入があったなら継いでいた」と回答された方が全体の半数を占めており、稼げる経営体を増やすことが必要である。そうしたことを踏まえ、稼げる農業への転換のため、農業における普及指導員などと連携協力し、経営に関する学びの場や

利益率を上げるための技術に触れる機会をさらに増やすべきではないか。

A 町としては、次の3つの方向性で改善していきたいと考えている。①経営力向上支援の強化、②民間主催セミナーの情報発信強化、③新技術販売戦略へのアクセス拡大。これからは農業を続けたい、子や孫に継がせたい、子や孫に継がせたいと思っていただけのような稼げる農業経営を支えるまちづくりにしかりと取り組んでいく。

(町長・産業振興部長)

Q 陣内踏切が開かずの踏切に

A 県と連携し安全対策を進める

やまべ りょうじ
山部 良二議員



このままでは、陣内踏切が開かずの踏切に！

肥後大津～宮地原28本より16本合わせて34本・肥後大津～熊本アクセス駅通間・片方向普通/47本・快速14本合わせて61本の列車が走行 合わせて162本の列車が走行する予定



陣内踏切

その他の質問

- ・調整池の整備について
- ・インクルーシブ社会の実現へ

Q 現在、肥後大津～宮地原、上下合わせて38本の列車が走っているが、アクセス鉄道が開業すれば合わせて約162本の列車が走行する。大津駅下り方面最初の踏切で役場に隣接した非常に交通量が多い踏切でアクセス鉄道が開業すれば、朝夕の通勤時間帯だけではなく一日中渋滞が発生する恐れがある。今の整備計画のまま着工に踏み切れば、町民は「未来永劫」渋滞に悩まされると思うが立体的な必要があるのでは。また、住民説明会で説明はしたのか。

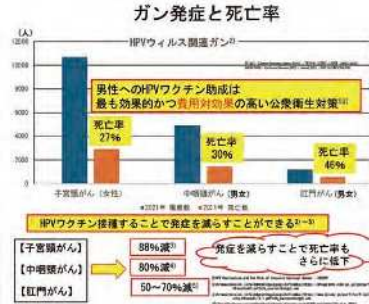
A 踏切を立体的な交通手段にする、という方式をとった場合でも住宅地や町役場のアクセス機能に大きな影響を与え、町の財政や他の基盤整備とのバランスに大きく影響するため考えていない。一方で安全・渋滞対策を進めていく。遮断時間や交通量の変化を検証し、遮断機の更新や視認性の向上などの安全対策や南北道路の整備についても、新たなルートの設定など交通を分散させることで、踏切に過度に車両が集中しないよう、道路ネットワーク全体での改善を図る。

(町長)

Q 男性へのHPVワクチンの公費導入を

A 男性への公費助成制度は考えていない

おおつか かつじ
大塚 勝二議員



その他の質問

- ・小中学校の少人数学級化
- ・教職員働き方改革について
- ・喫煙所の設置について

Q WHOによるとHPVワクチンは子宮頸がんだけでなく、男女接種を行うことで中咽頭がんなどの予防効果があり費用対効果の極めて高い政策である。将来の医療費抑制や健康寿命を伸ばすことにもつながる。女性性は国の公的助成により接種しているが、男性接種を含めた中長期的な予防施策と、正確な情報発信の必要性が大事ではないか。今後の方針について町長に問う。

A 命と健康を守る観点からこの課題の重要性を認識しており、まずは国に

Q 現行制度の中で、女性の定期接種の利用を、層を進めることを当面の優先の取組として位置づけていて、現時点で新たに男性へのHPVワクチン接種に対する公費助成制度を設けることは考えていない。(健康福祉部長)

制度に基づく女性の定期接種や検診受診率の向上、科学的根拠に基づく丁寧な情報提供に力を入れていく。男性接種についても、国の制度動向や先行自治体の事例を注視しながら、将来に向けて検討材料を整理していく。

Q 自転車交通反則通告制度導入への対応は

A 家庭・地域と連携し安全対策を図る

さんのみや みか
三宮 美香議員



その他の質問

- ・役場窓口受付業務時間の見直しと働き方改革の推進について

Q 道路交通法改正により、令和8年4月から自転車の交通反則通告制度(「青切符」)が導入される。自転車関連事故は全交通事故の2割を超え、信号無視や右側通行、一時停止などに反則金が科される。16歳以上が対象だが、実質的には家庭への影響も大きく、小中学生を含む町民全体への交通ルールの再徹底と安全教育が急務である。町として、学校・警察・地域と連携し、自転車の安全利用と事故防止にどのような取り組みでいくのか。

A 警察や交通安全関係団体と連携し、交通安全講話や啓発活動を実施している。法改正を機に、取締りではなく命を守る意識の共有を重視し、学校・地域・警察が連携した分りやすい周知や多言語対応も含め、事故防止に取り組む。

A 小中学校では発達段階に応じた交通安全教育を実施している。青切符制度導入を踏まえ、信号無視や右側通行の危険性などを具体的に指導し、成長段階での意識の切り替えや家庭・地域と連携した安全教育の充実を図っていく。(教育長)

子どもはSOSを出せているか

A 相談しやすい環境づくりを継続

■SOSの出し方教育で深刻化を防ぐ（久留米市の取組みより）

- 1 実施内容
 - ・中学校で年に1回定期的に実施（教職員向けにも実施）
 - ・家庭学習ワークショップも実施（児童・生徒と保護者・家族が一緒に参加）
 - ・学校と子ども家庭課（子ども家庭総合支援拠点）が連携し、必要時は児童相談所へ早期通報
- 2 効果
 - ・家庭ではなく、学校からの早期相談が増加
 - ・深刻化する前に相談が盛んになることが期待
 - ・保護者自身が「子どもがSOSを出してもいい」「言ってもいい」と思えるようになった
 - ・「相談に乗ってあげる」が増えた（＝相談文化が変化）
 - ・児童相談所の負担が軽減されている
- 3 ポイント
 - ・費用はほぼ無（講師謝金のみ）
 - ・授業の中で実施可能で現場負担が小さい
 - ・児童のSOSやSOSも増えている

※ 大津町でも「声を出さない構造」を変えるための有効な選択

Q 児童虐待相談件数は増加傾向にあり、どの家庭にも起こり得る問題である。一方で、「相談したら大ごとになる」と思ったり「知らない大人には話せなかった」「自分が悪いと思った」など、子どもがSOSを出せなかった理由も示されている。窓口や制度があるだけでは声が届きにくく、学校の中でも子どもが大人に相談しても大丈夫だと思える雰囲気や文化形成されているかが重要である。深刻化する前に子ども

Q 乳幼児期は自らSOSを発することが難しいため、日常の接点での気づきを重視している。学校では、いつでも相談できる雰囲気づくりに取り組むとともに、タブレットや電話による相談窓口を周知と環境づくりに取り組んでいく。

（町長・教育部長）

その他の質問

- ・発達障がい支援体制とインクルーシブ教育の取組について

肥後大津駅西側、灰塚3号踏切の安全確保を

A 関係機関と協議し、駅周辺安全性向上を図る



狭小で離合が困難な駅西側灰塚3号踏切

その他の質問

- ・学校給食単価見直しとふるさと納税の活用について
- ・宿泊税の使途と活気にぎわいを生む仕組みづくりについて
- ・教職員の職務専念の義務と政治活動について

Q 町が進める肥後大津駅周辺整備事業は、空港アクセス鉄道ルート、空港などの機会を最大限生かす、町全体を活性化させる将来ビジョン実現に向けて大きく動き出したと認識している。

鉄道建設が始まる際には、鉄道に関する知識を涵養し正確に議論しなければ税金の無駄になる。踏切や付帯施設の研究を行うべきだ。

灰塚3号踏切幅は最も有効かつオーバースペースに比べ費用対効果にも優れた改善手段。鉄道建設の基準に照らし整備の考えを伺う。

Q 駅西側の灰塚3号踏切は、この指摘の通り、普通車同士の離合が困難で、歩行者用の横断空間もほとんど確保されていない状況と認識している。

踏切の改良は鉄道の安全確保に不可欠な技術条件などとの整合が必要であり、国土交通省、JR九州を始め関係機関との協議が不可欠だ。道路機能強化と駅周辺の歩きやすさ、回遊性向上に取り組む。中長期的な視点で、踏切道改良促進法に基づく地方踏切道改良計画への位置付けを視野に事業補助の活用についても確認し、事業化と財源確保に向けた整理を進める。

（町長）

子育て世代や若年層が安心して住める町づくり

A 住まいの不安に対応していくことが町の基本



やまもと ふじお
山本 富二夫議員

Q TSMCの進出以後、周辺地域の住宅価格・家賃が上昇している。水が美味しくて、自然豊かで住みやすく子育てしやすいと感じて、大津町に住まれた方々が、子どもたちが小学校入学を控え、子ども部屋がある住まいを探したときに、今の収入では家賃が高く支払えないので、家賃が安い地域に住まいを探すと言われているのが大津町に住まわれている子育て世代や若年層の声です。

今の現状は、子育て世代の町外流出が起きていると感じるのである。

Q 広く家賃補填を行う仕組みを設けるのではなく、公営住宅の活用や空き家の利活用、福祉制度の案内といった別の手段で、住まいの不安に対応して行くことが大津町の基本的な考え方だ。中長期的には、将来の町の姿を見据えた都市計画の中で家賃の負担を上回る暮らしやすさを感じていただけるような町づくりを進める。

（町長）

Q 移住支援金は東京圏から、東・北・北小地区へ移住し、一定の条件を満たす場合は、世帯で百万円、18才未満の子どものにつき最大百万円を加算する仕組みもある。

（総務部長）

その他の質問

- ・人生100年時代の健康づくりと高齢者が支える側に回る社会づくりを
- ・犬猫免許取得等にかかる、毎年の必要経費を町負担すべきだ

町営住宅や公共施設への防犯カメラ整備は

A 優先順位を整理し、整備や補修を行う



にしかわ ひでつぐ
西川 秀賢議員

Q 町内では、盗難や空き巣が増え、町民の不安は高まっている。町民の命や財産を守るのは行政に課せられた最も基本的かつ重大な使命である。防犯カメラ整備は、費用が掛かってでもやるべき施策であり、対策を先送りすれば町民の信頼を失う事に繋がる。町の環境が急速に変化する中、町営住宅や他の公共施設に

Q 小さな犯罪であっても放置すれば地域の安心を損ない、より大きな判断に繋がるといえるという認識が重要、住民の皆様が安全と安心を守る事は、最優先事業の一つである。しっかりと全体的な視点を持ちながら進めていく。

（町長）

その他の質問

- ・大津町の三大祭りの継続と支援のあり方について
- ・義務教育における金融教育の導入について

総務常任委員会 行政視察レポート

視察テーマ

宮城県 : 1. 仙台空港アクセス線について
福島県双葉町 : 2. 東日本大震災(当時の状況・避難体制など)について
茨城県高萩市 : 3. 「My Rideのるる」について



通との結節強化について視察と意見交換を行いました。福島県双葉町では原子力災害からの復旧復興状況をご教示いただきました。茨城県高萩市ではA1オンデマンドバス事業について、研修および乗車視察を行いあわせて高萩市内の施設を2カ所視察しました。

今回の視察では、阿蘇くまもと空港アクセス鉄道計画と類似している仙台空港(側)を視察し、上下分離方式により運行をJR東日本、鉄道インフラの整備維持を第3セクターの鉄道会社が行っていました。また、中間駅想定と合致する美田園駅の駅本屋、ホームのデザイン、運行にかかわる施設と駅周辺の駐車場やバスベイの整備状況を現地で確認でき、名取市公共交通の「なとりんくる」との結節の必要性も認識することもでき、大変有意義な視察となりました。

総務常任委員会は、令和7年11月17日より19日迄の3日間、宮城県、福島県ならびに茨城県を訪問し行政視察を行いました。

宮城県では仙台空港鉄道(側)を訪問し空港アクセス鉄道事業の概要と中間駅周辺整備、公共交通

経済建設常任委員会 行政視察レポート

視察テーマ

福岡県福岡市 : 1. 九州半導体産業展
福岡県新宮町 : 2. 都市計画マスタープランについて
熊本県上天草市 : 3. 商工会の取り組みおよび市との連携について TATUYAの取り組み



経済建設委員会は令和7年10月8日～10日に行政視察を行いました。

福岡市の九州半導体産業展では「なぜ半導体企業が熊本を選んだのか」という点で地政学的な観点での説明や九州半導体の歴史、県内工業団地の整備状況、半導体人材育成の確保の現在の状況などの講演を受けました。

新宮町での都市計画マスタープランに関する意見交換では都市計画マスタープランの中間見直しを行っている状況や官民協働による「災害時の支援活動拠点」となるモデル市街地づくりなどの説明を受けました。

上天草市の観光振興に関する意見交換では民間投資が行われた上でのインバウンドの動きや様々な企業が共存し、相互作用が起これ地域全体の価値が向上した事例、上天草デジタル商品券の状況など多岐にわたる意見交換でした。

人口増加や住民ニーズの多様化などにより、職員不足が続いている中、いかに民間の力を行政が活用していくのかを重点的に学ばせていただきました。

常任委員会からの政策提言

毎年総務常任委員会、経済建設常任委員会、文教厚生常任委員会では、町内の課題を抽出し、町執行部に対して課題解決のための政策提言を行っております。

令和7年度に関しても、各常任委員会から12月定例会最終日に議長を通して、町長へ提言を行いました。



総務常任委員会

- ① 町民にとって真に役に立つ公共交通の創出
- ② 役場窓口業務の外部委託の推進
- ③ DXの推進と「行かない役場」の環境づくり
- ④ 納税者の気持ちに沿った受益の確保と活用
- ⑤ 気候変動による熱中症から町民の生活を守る取り組みを

経済建設常任委員会

- ① 肥後大津駅周辺整備について
- ② 町道拡幅の整備について
- ③ 林道作業道の整備について

詳しくはこちらから↓



文教厚生常任委員会

- ① 大津町が多文化共生社会のよいモデルとなるための取り組み
- ② 大津町における特認校制度の拡充に関する提言

議会改革推進特別委員会の取り組み

設置期間 令和7年6月～令和8年12月
委員長 佐藤真二 副委員長 三宮美香
委員 西川秀貴 清原さおり 岩下啓史

昨年3月の改選を受け新たに「議会改革推進特別委員会」を設置し、6月から活動しています。前期は「議会活性化特別委員会」で議員のなり手不足対策に取り組み「投票できる選挙」の実現につなげました。

今期は「議会」と「議員」の活動の見える化や「議会機能の充実」などに取り組んでいきます。

主な取り組み項目

議員活動の見える化	議会HPへの個人SNS等リンク集の掲載 町内イベント等でのポスターセッション
議会活動の見える化	議会公式SNSの導入 議会ホームページの機能充実 町民（団体）との対話・議会イベント
議会機能の充実	議会としての政策提案の仕組みづくり 反問権の導入検討 第2次議会DX推進計画の策定と実施

中でも「議員活動の見える化」は、議員報酬の改定を審議した令和6年の特別職報酬等審議会の答申において「議員個人の活動が住民に伝わるような情報発信」が求められており、議会もその実現に努めることを決議しています。

議会ホームページでは、これまで会議の議題のみを掲載していたものに簡単な説明を加えたり、議員名簿の情報を充実させたり、委員会の審議記録を公開する

など、少しずつ充実していっています。

議会公式SNSも令和8年1月から開始（試行）しています。（右）

また、議員個人の情報発信を知らせるため、議会ホームページに個人SNSや、活動報告書などへのリンクを掲載しています。

しかし個人SNSの公表にはリスクが伴うものとの懸念もあり、運用ガイドラインを策定し、問題が発生した場合は掲載中止にすることとしています。

今後も成果を積み重ねながら、議会改革を推進していきます。



～議会・議員活動の見える化活動のひとつ～

みんなで行こう！オープン議場 with 福祉まつり

一昨年から始めた福祉まつりに合わせた「議場開放」、昨年は衆院選で実施できませんでしたが、今年は10月19日、「みんなで行こう！オープン議場with福祉まつり」を開催しました。200人を超える町民の皆さんが議場に入れ、議長席や町長席に座っての写真撮影など、普段はできない経験をさせていただきました。

また、少しでも議員のことを知っていただこうと、各議員の机の上に、趣味や一日の過ごし方など、プライベートな面も含め議員を紹介するポスターを掲示しました。



文教厚生常任委員会 行政視察レポート

視察テーマ

1. 泉大津市立図書館「SHEEPLA（シーブラ）」の取り組みについて
2. 「小規模特認校 泉南市立東小学校」の取り組みについて



翌日10月31日（金）、泉南市立東小学校を訪れました。令和7年度の全校児童78名のうち地元児童は15名、特認校制度利用児童は63名。市内全校区から制度利用可能、中学校進学は在住校区へ戻る。遠距離通学はデメリットだが、コミュニティバス運行と運賃補助により負担軽減が図られているなどの説明を受け、当町でも取り入れられる先進事例だと感じました。

10月30日（木）泉大津市立図書館「シーブラ」を訪れました。平日の13時にも関わらず老若男女、多くの来館者が見受けられました。泉大津駅直結の商業施設4階フロア全体が図書館であり、買物ついでに立ち寄るのが利用しやすいなと感じていました。子どもの居場所として、「〇〇してはいけない」と禁止するのではなく、「お互いに快適な空間づくり」を唯一のルールとして掲げていることが、来館しやすい雰囲気づくりにつながっているとのことでした。「OKにする方法を、大人が考える」という館長の言葉に深く共感しました。

議会改革推進特別委員会 視察レポート

視察テーマ

- 福岡県 志免町・粕屋町：
1. 議会活性化の取り組みについて



策・施策にフィードバックされ、その結果は議会だよりで報告されます。

粕屋町は平成22年に策定された議会基本条例が実際に機能しているのかを検証するところから議会改革をスタートさせています。それを踏まえて基本条例で定められた項目に実効性を持たせるため必要の要綱を定めるなどドラステイックに取り組んでいました。

いずれも今後の大津町議会の取り組みの先例として参考になるものでした。

この他、令和7年7月26日に玉名市で開催された、「対話による地方議会改革フォーラム勉強会」にも研修として参加しています。

議会改革推進特別委員会は令和7年11月20日と21日に福岡県志免町・粕屋町の2か所を視察しました。

翔陽生 大津町議会傍聴に

12月15日(月)、大津町議会(一般質問2日目)の様子を翔陽高校3年次生20名(政治経済受講者)が傍聴させて頂きました。7月の参院選の前には模擬公開討論会・模擬投票の授業を行い、主権者としての意識が高まった生徒たち。今回は議場から見える眺めの良さに感動するとともに、議会の雰囲気を感じることができました。生徒たちのレポートの中から一部をご紹介します。



たなか りおん
田中 璃音さん
(菊池北中出身)

議会を傍聴してみて大津町には「いち早く発展していきたい」という想いがとても強くある一方で、政策や具体的な対策がまだ十分に進んでいないという部分もあることを感じました。また、大津町に住んでいる人たちが大津町の現状や課題を知る機会が少ないことは一つの課題だと感じました。今回、政治経済の授業で傍聴したから私たちは色々なことを学べましたが、そうでなかったら何も知らないまま大人になったかもしれません。若い世代にも分かりやすく伝える工夫が必要だと思いました。私は大津町の高校生の一員として、町の未来を「決められる側」から「考えていく側」として関わってきたいと思いました。例えば今回の議会傍聴での内容をもとに共有したり、自分の意見を伝えられる機会があれば積極的に参加し、若い世代の声を町に届けていきたいです。今回の傍聴が、町の未来を自分事として考えていく良いきっかけになりました。

私は生まれたときから住んでいる大津町は住みやすく良い町だと感じながら過ごしてきましたが、課題もたくさんあり、それらの解決に向けて着実に動いているんだと感じました。私たちが直接意見を伝えるのは難しいと感じるけれど、今回のように議会を傍聴したり、「議会だより」などに目を通して現状を把握し、選挙などがあれば必ず自分の意思で投票するという形で関わっていききたいと思いました。

今回の傍聴で「そんなことがあるんだ」と全く知らなかった大津町の課題を知ることができ、今の私たちの生活にも関係が深い話題もありました。今後の動きに注目して、課題解決に向けた動きを見ていきたいです。



たなか りおん
田中 璃音さん
(大津北中出身)

半導体を中心として様々な企業が発達している大津町では地下水や下水道問題などの課題を今回の一般質問では挙げられており、それぞれの問題への回答を知ることができました。地下水問題については、しっかりとした情報や知識をもう一度身に付けることで公害の恐ろしさや汚水の影響を知り、地下水問題の危険性を理解していくべきだと思いました。また、スピード感を重視すべきだという意見が出ており、計画的に進めるためには、明確に時期を設定し、周りの方を安心させることにつながる政治の進め方の重要さを学びました。社会全体の経済状況を踏まえた考えを一人の大人として考えることで色んな問題に関わることができると感じました。大津町だけでなく、住んでいる市町村や卒業後、生活する場所についても知りたいと思います。



そそぎ りんか
林 結香さん
(楠中出身)

初めて議会を傍聴しました。議会中とはとても静かで緊張した雰囲気でしたが、休憩に入ると議員の方が話しかけてくださったりしました。今回傍聴した議会の一般質問では、地下水の取水量の問題を聞き、TSMC 進出により交通量も増え、渋滞問題もある中で、住んでいる住民にとっては問題視される内容だと思いました。また自衛隊への個人情報の提供の除外申請については、そのような制度ができることを知らなかったため、私たち世代も知ることができるよう、学校の廊下にポスターを貼ったり、SNS を活用して除外申請できることをアップすると若い世代の目にも入るのでは、と考えました。



いざわき すずな
井芹 涼菜さん
(阿蘇西原中出身)

若者の視点

尚綱大学生によるレポート 38

大津町議員との意見交換会を終えて

11月12日(水)に尚綱大学現代文化学部3年生25名と大津町議会広報委員5人とで現代文化学部の課題探究プロジェクト演習の授業の場において意見交換会を行いました。3年生の学生は、アルバイトなどの社会体験もある関係で、意見交換会の後、率直な個人的意見を含めたレポートを提出しています。以下学生の考えを抜粋し紹介します。

1. 印象に残ったこと

大津町議員との交流で印象に残ったことが2つあります。1つ目は、「おおづまち議会だより」についてです。大津町議会が行ったことをただ書くのではなく、文字の間隔を広めたり、20ページフルカラーにしたりと町民に見てもらうための工夫が印象に残りました。2つ目は、乗り合いタクシー制度です。区域内であればどこでも降車・乗車ができる制度で、調べたところ150円～(区域によるが)利用できるそうです。近年ではバスの本数が減ったり、値段が上がったりと簡単にバスを利用しにくくなっているの非常によい制度だなと印象に残りました。

2. 疑問に感じたこと

大津町では議会だよりの発行に1回でかなりの額を使用しているところに少々疑問ももちました。たしかに高齢者や若者のどちらにも見てもらいたいという気持ちは分かるのですが、若者は紙媒体で見る人は少なくWeb上で見る人が多いと思います。そのため、発行部数を減らして議会だよりを紙媒体で欲しい人だけがもらえるようにしたいいいのではないかと考えました。町民に直接聞いたり、アンケートを取ったりするなどして今後の発行にかかる費用を改める必要があると感じました。



現代文化学部
3年
まつもと りな
松本 菜央さん

今回は、議会の活動を中心に、大津町が力を入れる取り組みについてお話を聞きました。その中で私が特に興味をもったのは、若者世代と高齢者世代へ向けた取り組みです。

授業内で配布された大津町の議会だよりは、若い世代にも興味をもってもらえるようにとリニューアルされたものらしく、全ページカラーとなっており、比較的文字が大きいほか文字数も減らし読みやすくなっていることが特色でした。QRコードが記載されており、スマートフォンで読みこむことができるページが多いのも印象的でした。

このリニューアルは、スマートフォンが身近な若者だけでなく、高齢者にとってもメリットがあり、すべてをデジタルではなく、あえて紙のまま残し、大きな文字で高齢者も読みやすくなっています。

また、大津町は人口が増加傾向で子育て世帯をピックアップすることが多いというお話も聞きましたが、高齢者の自動車免許自主返納に対する特典や、安価な料金で乗合タクシーが利用可能といった支援もされており、若い世代・高齢者世代の双方に目を向けた取り組みがなされていることに感心しました。

議 会 を 観 て の 生 の 声

12月定例会の傍聴者数のべ112人、ライブ配信再生回数861回 録画配信再生回数362回(1/28時点)

議会を傍聴して貴重な体験ができました。



大津町商工会青年部
部長 黒田 晃さん

議会の一般質問を傍聴しました。傍聴の機会は2回目です。内容として祭り事業への予算については、大津町の祭り、イベントを第一線で動いている身としてはとてもありがたい内容でした。問答がスムーズなのは事前に質問が通達してあり、回答が準備してあるんだろうと、国会と同様で町のバージョンを聞くのは楽しくも思います。しかし、回答を準備してある上で質問に対して本質な部分での回答なのかという疑問も残り、簡単に回答できない問答もあるとは分かる上で、回答ができない問答を議会でする必要性はどうなんだろうという気持ちもありました。回答ができないなら当たり障りのない回答より、しっかりと協議した上での回答、そしてそれに対する問答を聞きたいという感想もありました。

どちらにしても、文面では見ない、気付かない内容を議会では聞いて把握できるので貴重な経験だなと思いました。

こんな意見もありました

一般質問、始めて傍聴させていただきましたが、町長との意見のやり取り、色々な問題の深いところまでのやり取りが凄いな、と思いました。

こちら側が色々な問題を投げ掛けないと、問題は何も解決しないままなんだなと思いました。

インスタ 開設しました

Follow Me

公式Instagram開設 フォローをお願いします。

「議員って日頃どんなことをしているの」との声をいただき、それに応えるため大津町議会で公式Instagramを開設しました。Instagram内では議員の紹介や活動を動画などで分かりやすく紹介していきます。ぜひ、フォローをお願いします。



次回定例会は

3月2日(月)開催予定

(日程は変更になる場合があります)

日程 3月2日(月)～19日(木) (予定)

会場 庁舎 4階 議場

議会広報編集特別委員会

編集 (委員長) 大村 裕一郎 (副委員長) 清原 さおり
(委員) 三宮 美香/村山 龍一/中山 直之

発行責任者: (議長) 坂本 典光

令和8年2月16日 第114号 発行/熊本県菊池郡大津町議会
編集/議会広報編集特別委員会 印刷/株式会社キャップ

〒869-1292 熊本県菊池郡大津町大津1233 ☎(096) 293-8989

編集後記

本年は、大津町が町村合併をして、70年となり、熊本地震から10年となる節目の年です。阿蘇くまもと空港アクセス鉄道の整備計画、大津町振興総合計画、大津町都市計画マスタープランなど、これからの大津町の計画が進められる年でもあります。議会だよりも町民の方々にわかりやすく町や議会の取り組みを伝えられるように編集できればと思っております。

(村山龍一)